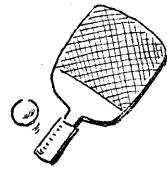


## 高層住宅と子どもものあそび



林 美智子

先日「幼児の教育」の編集部から、高層住宅がふえるにつれて、そこに住む子どもたちが、どのような遊びをするか、又その遊び方や、遊びのしぐさが昔とは違っていかないか、違っているとしたらどのような変り方なのか、等について、これから取り上げてゆきたいが、先ず現在の幼稚園での子ども遊びの様子はどうか、書いてほしいという依頼を受けた。

丁度「高層住宅と子供の発育」

少ない幼児の外遊び

母親はキメ細かな配慮を

という日本経済新聞(六月の夕刊)の記事を読んで二日程した時であった。

実は、ここ数年前から子ども遊びを見ていると「この頃の子どもは、なんとなく違う、どうしてこうなのかな?」と疑問を持つことが多くなっていた。

例えば、今まで楽しそうに遊んでいたかと思うと、急にヒステリックになって乱暴したり、目まぐるしく遊びを変えたり、イライラと落着かない子がいる。又極端なほどに外へ出たがらない子もいる。これらの原因の一つに、高層住宅の生活が影響しているとはいえないだろうか。

昔の住いの開かれた環境とは違って、閉ざされた中での生活のストレスの「はけぐち」がこういう結果を生みだしていて、大人にとっては、みはらしのいい、機能的で住みごこちのよい高層住

宅も、子どもにとつてはそうとはばかり云えないようである。

例えば、東京工業大学社会科学科助教授の原芳男氏は、「高層に住む幼児は、戸外よりも、自宅の部屋や棟内の階段・廊下で遊ぶことが多い。そして部屋にいるときは、テレビの視聴時間がどうしても長くなっている。そのために、母親が連れ出してくれる以外、自分では外に出られない一歳半から二歳半のテレビ視聴は、幼児のなかで最高となり、高層の子どもは低層の子どもよりも、全年齢を通して長時間になる傾向がある」と述べている。(日本経済新聞)

事実、幼稚園での子どもの遊びの中にも、テレビの影響は強く反映されていて、子どもたちのよく見るテレビマンガの主人公に、自分の身をおきかえての行動が多く見られるし、グループになると、怪獣ごっこやガッチャマンごっこが盛んに行なわれる。年少児の中には、大きくなったら、仮面ライダーやウルトラマンになりたいという発想もでてくる。

又大地をふみしめての外遊びよりも、室内遊びを多く経験して来た子どもたちは、幼稚園でも、ままごと遊びや、絵を描いたり、何かを作ったり、絵本を見たりすることの方が得意で、体を動かすことを好みながらも、自分から、園庭に飛び出していった、広い空間で活動することに対する興味の示し方がおそくなっ

ているのではないだろうか。

外遊びの経験の少なさと、自由に外に出られない不便さが、子どもたちの外遊びに不安を与え、子どもたちをそう云う結果においやっていると云えるかもしれない。

「二階でございます、おおりの方はございませんか」

「四階は通過、五階はおもちゃ売場でございます」

「七階は食堂です、おりて下さい」

などと保育室の戸を開けたり、閉めたりするエレベーターごっこは、昔は見られなかった遊びの一つである。戸の近くに押しボタンがはられ、エレベーター係の子どもが戸を開けるまで、みんな保育室の前で待たされる。以上は高層住宅が子どもに及ぼしたと思われるほんのわずかな例にすぎないものである。

この狭い国土を利用して住まざるを得ぬ日本人にとって、今後ますます高層住宅との関係は、密になって来ると思われるが、その中に生活する大人が、将来をになう子どもたちの心の中に、自然に寄りそう日本人本来の姿を見失わせてしまったり、大空に羽ばたくべき鳥を、小さな籠に閉じ込めてしまうことのないように、私たち保育者も努力しなければならないと思っ

(東京・音羽幼稚園)